



奈良県農業研究開発センター ニュース

2021
12
vol.161

イチゴ新品種 ‘ならあかり’

～甘くて真っ赤な粒ぞろいのイチゴ～

イチゴの新品種 ‘ならあかり’ を育成しました。本品種は早くから収穫可能で、糖度が安定して、すっきりとした甘みが特徴です。

1. 背景と目的

近年、直接取引や直接販売が盛んになってきているイチゴですが、特にクリスマス需要にあわせて12月に安定供給できることが求められています。また、観光農園ではいつでも美味しいイチゴが必要です。

そこで、収穫開始時期が早く、食味が安定して良い品種の育成に取り組みました。

2. 研究成果の概要

‘ならあかり’ は2014年に‘古都華’と‘とちおとめ’を育種親に持つ系統に、‘古都華’と‘かおり野’を育種親に持つ系統を交配した実生から選抜しました(図1)。

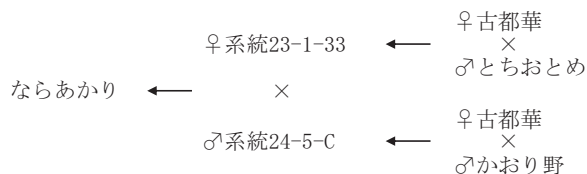


図1 ‘ならあかり’の育成経過

収穫開始時期は11月下旬と早く、年内収量が多い品種です。総収量は‘古都華’よりやや多く、‘アスカルビー’よりやや少ないです(表)。果実は、光沢のある赤色できれいな円錐形をしていて、揃いは良好です。糖度は収穫期間を通して高く、適度な酸味があります。

2016～2021年には現地栽培試験を実施し、促成栽培における適応性を確認しました。

2020年12月からは‘奈良11号’として販売し、ケーキ店や観光農園等で高い評価が得られましたので2021年8月に品種登録出願し、12月28日に出版公表されました。

表 ‘ならあかり’と既存品種の収量(2020～2021年)

品種	収穫開始日	年内収量 (g/株)	総収量 (g/株)	平均果重 (g/果)
ならあかり	11月27日	118	954	18.5
アスカルビー	12月9日	108	1014	18.7
古都華	12月11日	77	887	23.6

本年度、県内48の生産者が‘ならあかり’を栽培しています。これで、栽培されている県育成品種は‘アスカルビー’、‘古都華’、‘珠姫’、‘奈乃華’とあわせて5つになります。それぞれ異なる特徴がありますので、‘ならあかり’も皆様に選んでいただける品種になることを期待しています。



図2 新品種 ‘ならあかり’

(育種科 矢奥 泰章)